



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字news

7月号



2011赤十字運動標語
「Together for humanity」
～人間を救うのは人間だ。～

発行日:平成23年7月13日(第48号)
発行所:日本赤十字社鳥取県支部
鳥取市東町1丁目271
0857-22-4466
発行責任者:事務局長 尾田 一壽

鳥取県赤十字血液センターからのお知らせ 7月は『愛の血液助け合い運動』月間です！

「愛の献血助け合い運動」は厚生労働省、都道府県、日本赤十字社の主催で7月31日まで全国で展開されます。

すべての血液製剤を国民の皆様の献血によって、安定的に確保する体制を早期に確立するため、献血に関するご理解とご協力を求めています。それとともに、特に成分献血・400mL献血への協力をお願いし、献血運動の一層の推進を図ることを目的としています。



下記日程・献血会場で
献血にご協力いただいた方へ
「けんけつちゃんミニタオル」をプレゼント



献血会場	日程	時間
パープルタウン	7月18日	11:00～16:30
イオン日吉津ショッピングセンター	7月23日	11:00～16:30
イオン鳥取北ショッピングセンター	8月6日	11:00～16:30

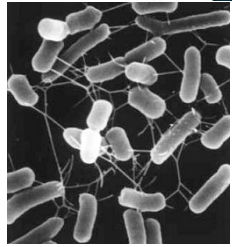
鳥取赤十字病院からのお知らせ

最近よく耳にする・・・肉の食中毒『O-111』って何？



生食用食肉で集団食中毒が起きてしまったO-111は腸管出血性大腸菌といいます。

腸管出血性大腸菌は、O-157が有名ですが、O-111、O-157の他にO-26、O-128等があります。この名前の由来は発見された順番で名前がついています。これらの大腸菌が怖いのは、「ベロ毒素」という毒素を作るからです。ベロ毒素は血管の内側にくっついて、血管や細胞を破壊します。腸の血管につくと出血を伴う腸炎が起こり、血便が出ます。毒素が腎臓に回ると「溶血性尿毒症症候群（HUS）」になり、腎臓が働かなくなり、死亡することもあります。



腸管出血性大腸菌の食中毒はほとんどがO-157であり、O-111は1割未満です。O-111で重症化しやすいのは、抵抗力の弱い子供や高齢者ですが、大人でもO-111が大量についた食品を食べれば危険です。腸管出血性大腸菌は家畜の腸内に生息し、皮膚にもついています。普段食べる部分は筋肉の部分で、ここには本来菌はいません。

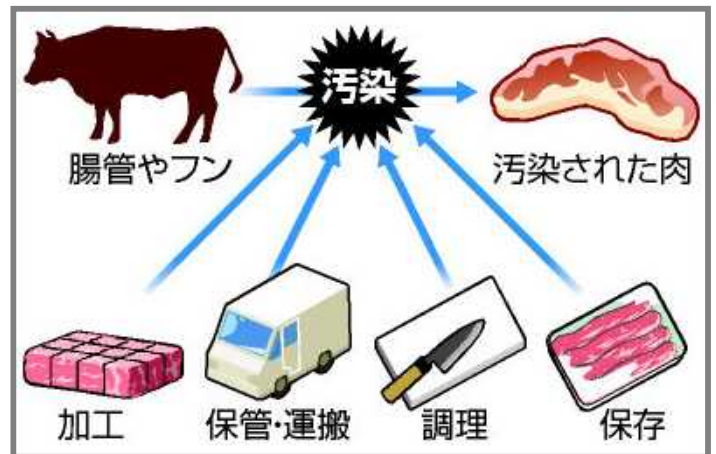


しかし、解体する際に菌が肉の表面に移ることがあります。

ユッケは加熱処理をしないため、菌がついていればそのまま口に入ります。

また、汚染された調理器具から、生で食べる食材に菌がついていても感染します。

生食でなくても、加熱が不十分だと食中毒のリスクがあります。腸管出血性大腸菌は、75℃で1分以上加熱すると死にます。肉を調理する時は十分に加熱することが重要です。



東日本大震災救援活動報告写真パネル展示について

3月11日に発生した東日本大震災において、日本赤十字社は発生直後から救援活動を行い、鳥取県支部においても、発生3時間15分後に出発した災害医療派遣チーム（DMAT）1隊をはじめ、救護班7班及び、心のケア支援要員などを派遣し、被災地の支援を行ってきました。

現在までの救援活動の報告を写真パネルにまとめ、鳥取赤十字病院B館1階売店前の廊下に展示しております。

病院にお立ち寄りの折には、是非ご覧ください。

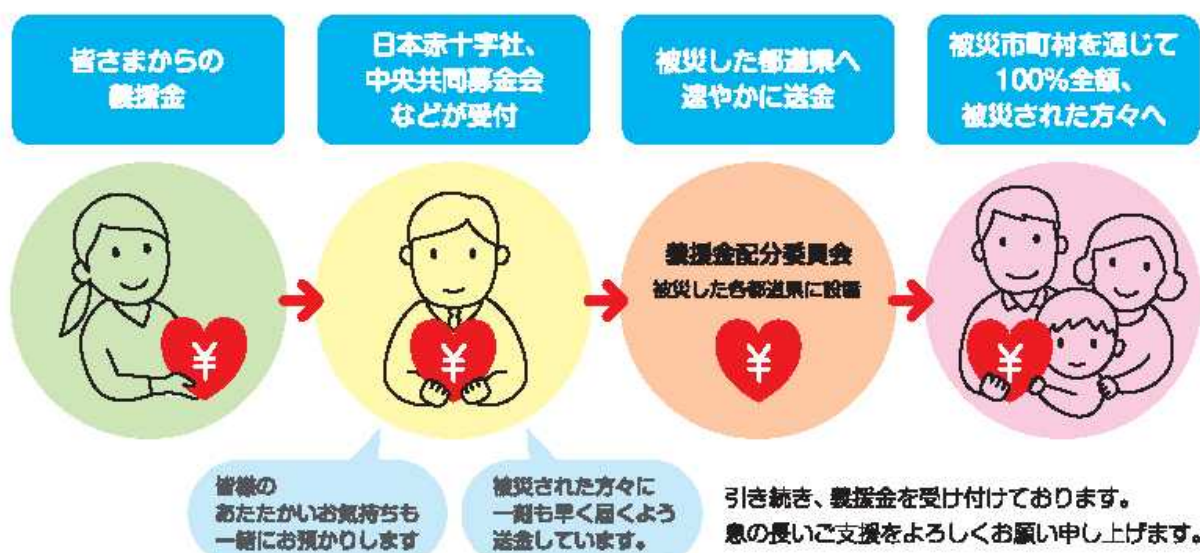


鳥取県支部からのお知らせ

日本赤十字社は義援金を100%被災地にお届けしています

日本赤十字社は 義援金を100%被災地 お届けしています。

手数料などは、一切いただいておりません。
被災地の自治体に、順次、速やかに送金しています。



◇◇◇ 義援金および日赤の活動資金へのご協力に、心より感謝申し上げます。◇◇◇



日本赤十字社は、義援金の受付を行うだけでなく、石巻赤十字病院をはじめとする被災地への医療救護班の派遣や救援物資をお届けするなど、様々な活動を展開しています。このような活動を支えているのは、日ごろ皆様の善意でお寄せいただく「活動資金」です。日本赤十字社の「活動資金」に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ（フリーダイヤル）Tel. 0120-60-0122 受付時間 平日▷9:00～19:00 / 土・日、祝日▷9:00～17:30



義援金及び赤十字活動資金へのご協力はこちら

赤十字の活動は、皆さまから頂く社資（社費・寄付金）で支えられています。